

# 令和6年度 学校経営方針

国立市立国立第一中学校 校長 田中 圭

## 1 経営の基本理念

創立77年の伝統と誇りを基盤とし、生徒・保護者・地域社会から信頼され、愛される学校を目指すため、次の3点を踏まえた学校経営を行う。

- (1) 授業力の向上 ～授業は教師の生命線～
- (2) 保護者、地域、関係諸機関との連携 ～「ONE TEAM 一中」～
- (3) 教育公務員としての法令遵守 ～教員としての誇りと責務～

## 2 教育目標

- 一、 **自ら学び考え自主的な行動をしよう**
- 一、 **豊かな創造性を養おう**
- 一、 **思いやる心をもとう**
- 一、 **健康な心身をつくろう**

## 3 基本方針

- (1) 日本国憲法・教育基本法の精神に則り、関係法令及び学習指導要領等に準拠しながら教育目標の実現に向けた教育を推進する。
- (2) 生徒の実態を踏まえ、教育課題の改善を図りながら進化し続ける教育を展開し、生徒一人一人が自己実現を図り、夢や希望、生きがいをもつことができる学校づくりを推進する。
- (3) 教育公務員としての自覚をもちながら、学校組織の一員として一人一人が力を発揮し、共通理解に基づいて課せられた責務を確実に遂行する。
- (4) 良さ校風や伝統を継承し、保護者及び地域社会との相互理解を深めながら、地域に開かれ、地域と共に歩む学校づくりを推進する。 →令和7年度よりコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）

## 4 教育目標の実現に向けた令和6年度の重点

思いやる心もち、安心して学び合える環境で、自ら考え、正しく判断しながら自主的に行動できる一中生

## 5 学校経営の要点

### (1) 確かな学力の向上（教育目標「自ら学び、考え、自主的な行動をしよう」） 本年度の重点項目

- ①「本時のねらい」の明確化、質の高い課題設定、本時の振り返りを確実にを行う授業構成に基づき、指導及び指導計画を適宜見直ししながら学びの質を高める。
- ②「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を行うことで、より質の高い学びの実現を目指す。そのために、毎時間の授業を通して、主体的に学習に取り組み、根拠に基づいて考え、それを明確に伝えられる指導の充実を図る。
- ③1人1台端末を活用し、個に応じた指導と対面指導の充実を図る。教育支援ソフト等を活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指す。あわせて教員の技能向上及び情報リテラシー教育の充実を図る。
- ④習熟度別及び少人数による指導、スマイリースタッフによる学習支援等を活用し、個に応じた指導方法や指導形態を工夫し、生徒一人一人が大切にされる学習環境づくりを行う。
- ⑤特別支援教育の視点を踏まえた授業実践に取り組むとともに、特別支援学級との交流・共同学習を推進する。
- ⑥読書を学びの礎とし、年間を通して朝の読書活動を行う。また、学校司書と連携して学校図書室の充実を図り、読書を通してより人生を豊かにしようとする態度を育てる。

### (2) 心の教育の充実（教育目標「思いやる心をもとう」） 本年度の重点項目

- ①規範意識の醸成と公共心の涵養、基本的生活習慣の確立を図る。
- ②インクルーシブ教育の視点を踏まえ、関係諸機関と連携し試行錯誤を重ねながら、一人一人がその子らしくいられる環境づくりと教育活動を推進する。

- ③人権尊重教育推進校として教育活動全体を通じて人権教育を充実させ、「多様性に気付き、自他を認め、共生する心をもった生徒」を育成する。具現化に向けて外部人材・外部機関等と連携し、指導力の向上を図る。
- ④道徳科の授業を充実させるために、授業は教科書を使用して計画的に行い、研究授業等を通して効果的な指導方法を身に付け、適正な評価を行うことで質の高い「考え、議論する道徳」の授業を実践する。また、自尊感情や自己有用感を醸成し、他者を大切に「思いやりの心」を育てる教育の充実を図るため、全教員によるローテーション授業を行う。
- ⑤生徒有志による「スクール・バディ」の活動を通して、生徒が主体的にいじめ防止や傍観者をなくす取組を推進する。
- ⑥「SNS 一中ルール」を定着させ、生徒が主体的に判断し、正しい行動できるよう指導を充実させる。あわせて「SNS 家庭ルール」の作成及び徹底を生徒・保護者に促すことで情報モラル教育を推進する。
- ⑦生徒の主体性及び自主性を育むとともに、多様性に気付き、自他を認め、共生する心をもった生徒を育成するために、生徒主体によるカジュアルウィークを実施する。
- ⑧円滑な学校生活の実現に向けて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、外部機関等と連携して、カウンセリング及び教育相談活動を行う。
- ⑨学校生活満足度調査を活用したり、教育活動に構成的グループエンカウンターを適宜取り入れたりしながら学年・学級経営の充実を図ることで、魅力ある学校づくりを目指す。
- ⑩校庭の芝生、一中花壇の整備等の環境整備活動・ボランティア活動を、生徒が主体となって活動することで、自分が所属する学校や自分が住む郷土を愛する心を育む。活動に当たっては地域人材の協力を得ることで、「一中生も地域の一員である」との自覚をもてるようにする。

### (3) 特別活動

- ①生徒一人一人が大切にされるあたたかい学級経営及び学年経営の充実を図り、生徒との信頼関係を深める。
- ②限られた時間・準備を有効に効果的に活用しながら、生徒が主体的に活動する学校行事を行う。

### (4) 生徒の安全の確保と安全教育、防災教育・対策

- ①防災教育及びセーフティ教室等により、自他の命を自ら守ろうとする態度を育成する。
- ②施設点検の計画実施と、来訪者の対応など安全確保の意識を高める。

### (5) 小・中連携、中・高連携、保護者・地域との連携

- ①6年生の中学校訪問、生徒によるボランティア活動等、小学校と連携することで円滑な学校間接続を図る。
- ②上級学校の先生の話聴く会、学習補充教室等を都立国立高等学校等と連携して実施することで、見本となる高校生の姿に学ぶ機会を設定する。
- ③PTAと教職員との交流を促進し、連携を深めることで、学校運営、学年運営及び学級運営の充実を図る。
- ④職場体験、地域行事及び奉仕活動等へ参加することで学校と地域との連携を深め、地域に対する愛着と誇りをもち、地域社会の一員として生きようとする態度を育む。

### (6) 教員の資質向上～教育目標の実現に向けて

- ①教育公務員としての誇りと自覚をもち、サービスの厳正に努めながら職務を遂行する。
- ②専門職としての指導力を高め、生徒の可能性を引き出し伸ばす教職員として、学習指導力、生活指導・進路指導力の向上に努める。
- ③教育目標及び教育課程を踏まえ、学校運営力・組織貢献力、外部との連携・折衝力の向上に努める。
- ④教職員が生きがいを実感しながら働くことができる職場を目指し、教職員の心身の健康を意識しながら校務改善に取り組む。そのために、行事等の精選・見直し、スクールサポートスタッフの活用、校務DXの推進（「すぐる」の積極的な活用、ペーパーレス化の推進、デジタル採点の導入等）、部活動の負担軽減（最終下校時刻を平日17時30分（通年）、土日どちらか一日又は両日を休養日とし平日は一日以上の休養日を設定、複数顧問制、部活動外部指導員による指導等）等により、教員の負担軽減を図る。